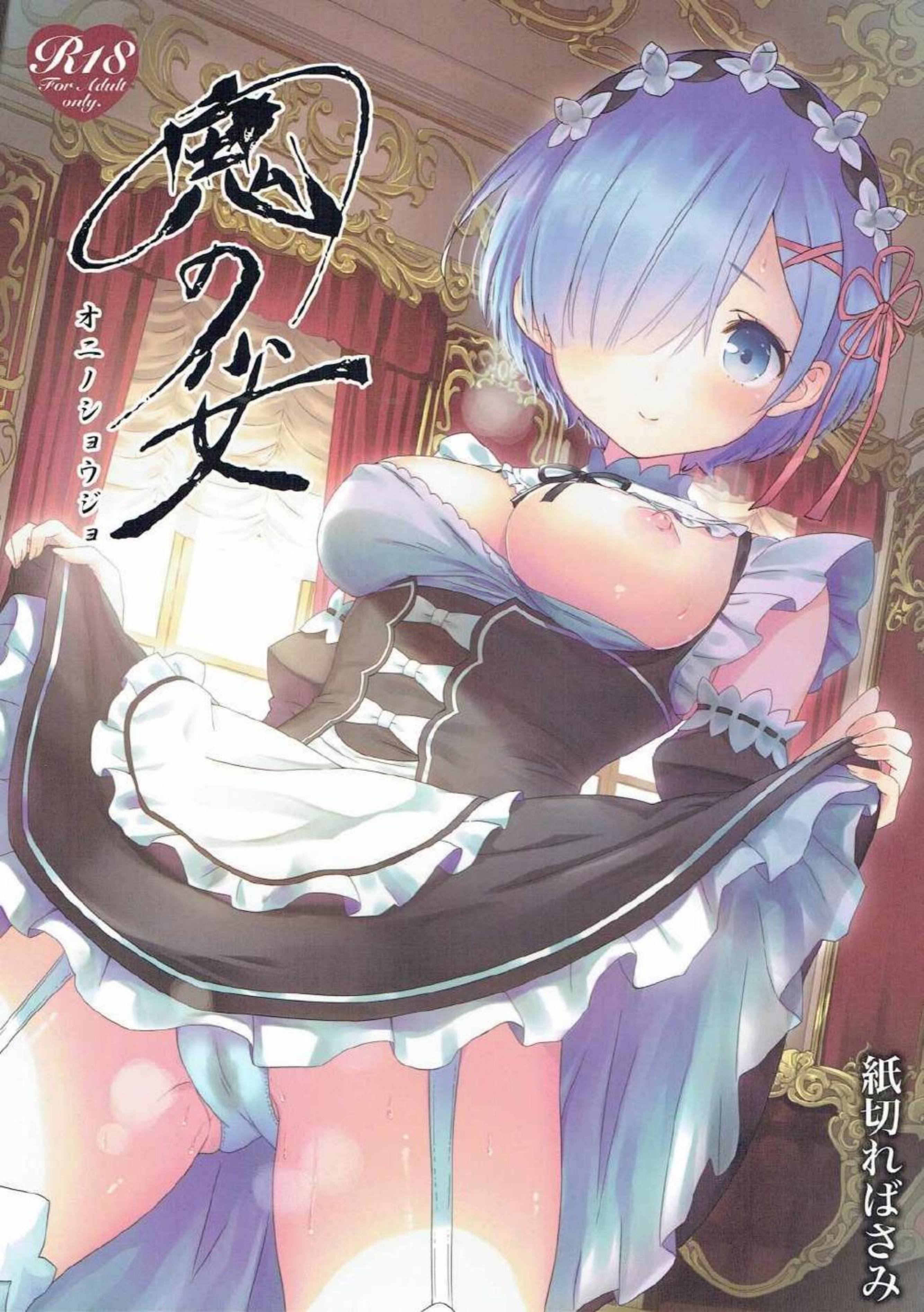


R18  
For Adult  
only.

# 虎の女

オニノシヨウジョ



紙切ればさみ

私は鬼だ

それは種族がそうだからとか  
関係なく

私の存在が私自身で  
鬼だと思っている



種族の意味ではない鬼  
だと言うなれば

どう言った意味の  
鬼なのかは説明し難い




当たり前前に、私の中で鬼とは

種族の意味でしか  
知らないのだから


けれど






今の私を形容するなれば  
それはきつと

—『鬼』—



が正しいのだろうと思う




意味として分からないのに  
変な事だ


理解出来ていないのに  
正しいと思ってしまう

……いや  
理解していないなんて  
言うのは嘘だろう

私は自分自身  
騙せはしないのだ



鬼の意味を理解して  
私は私をそう呼ぶ



だって……

スバルくん  
レムがずっと  
側にいますよ

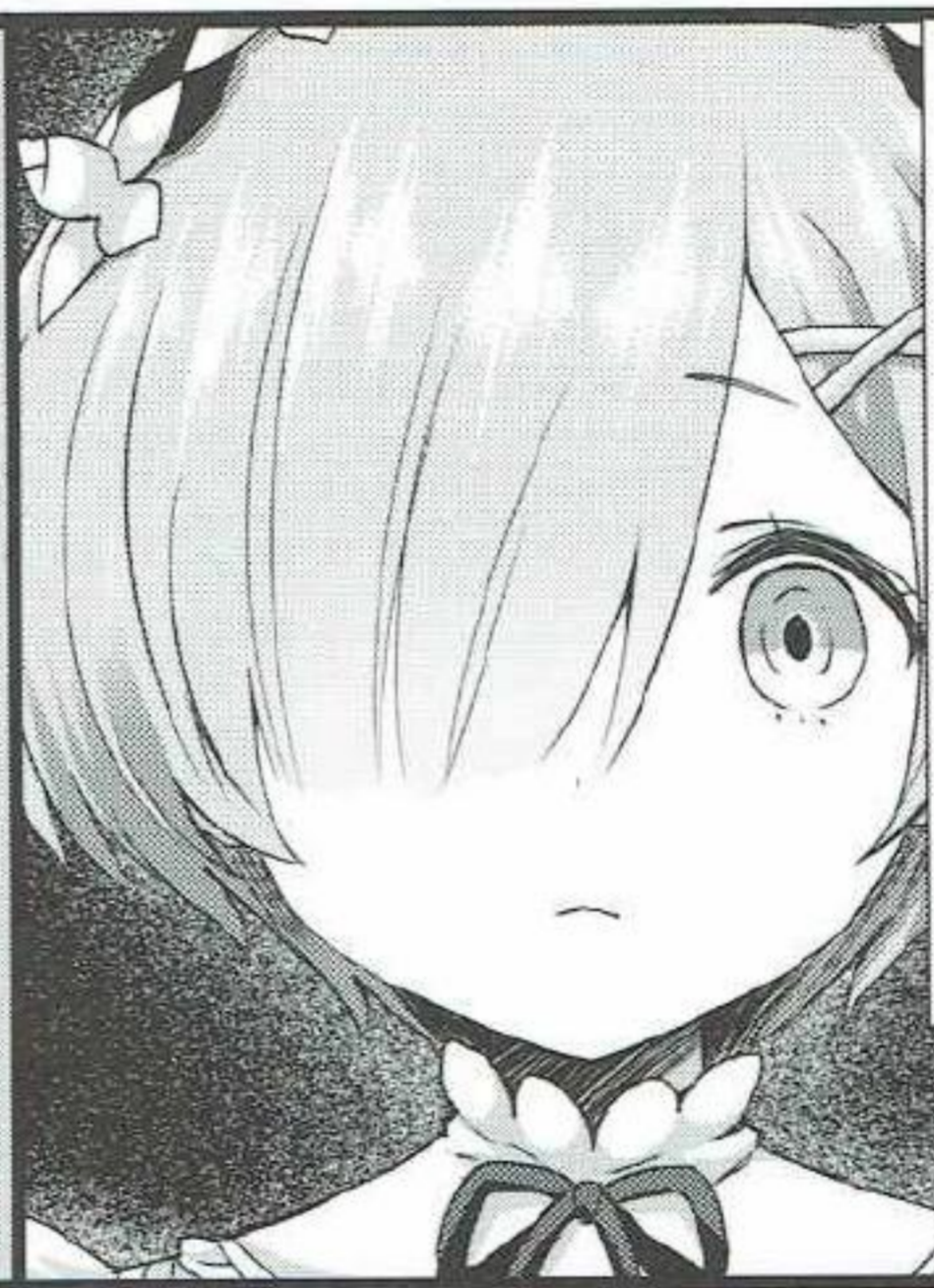
事が起きたのは2日前

私はその現場を直接  
見たわけではないので

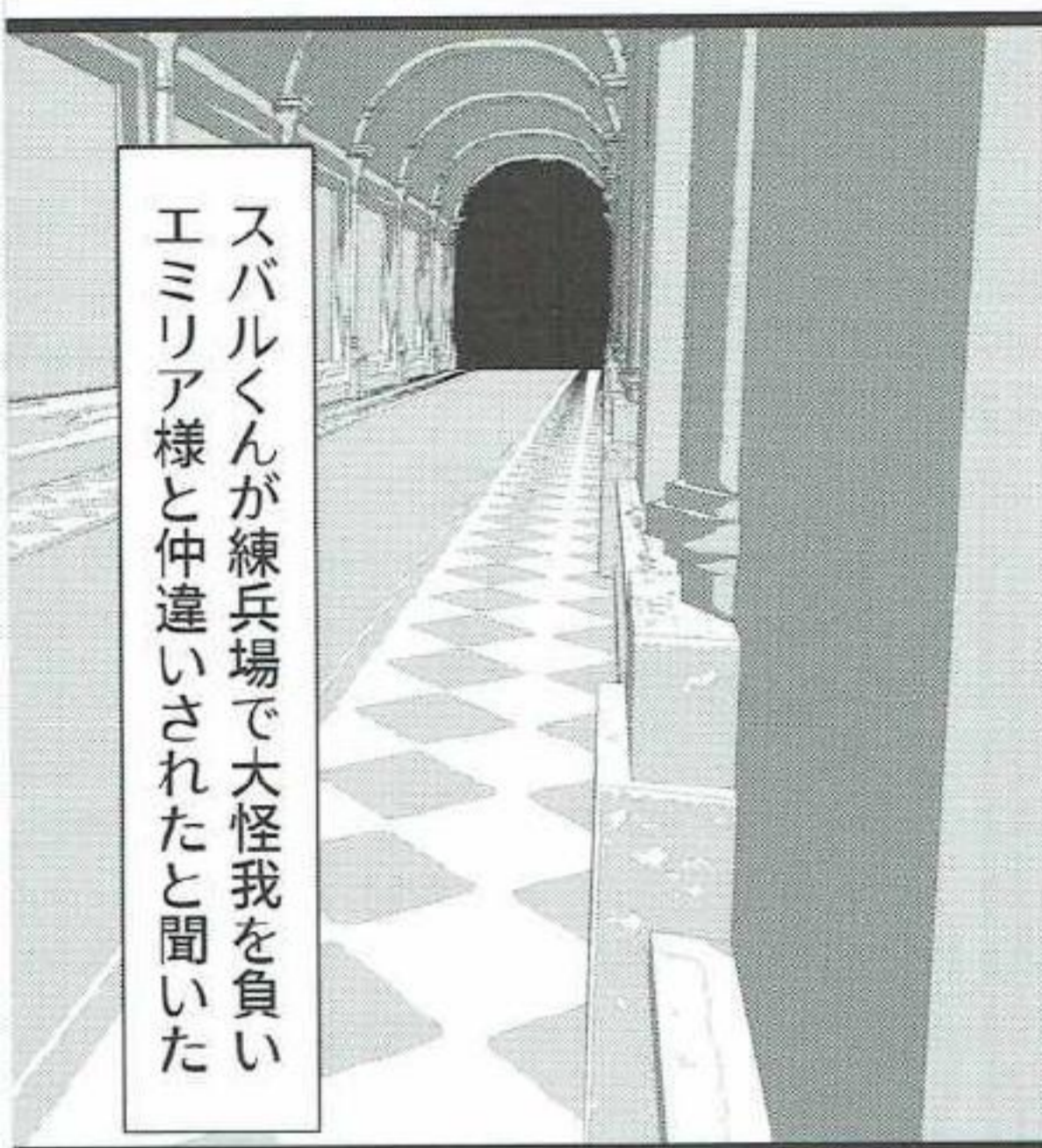
人からの聞き伝えでしか  
分からない



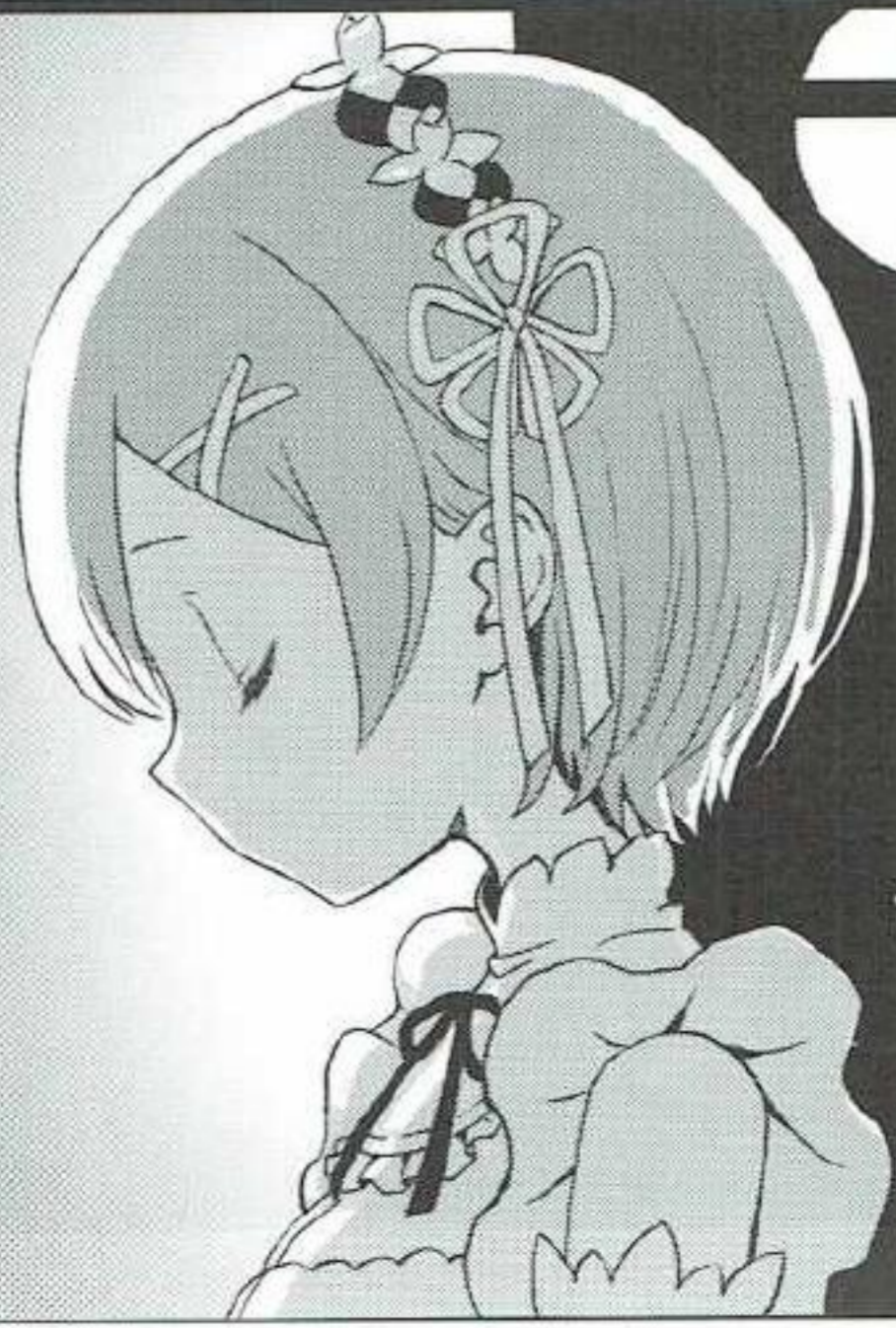
ただ、その話を聞いた時の私は  
今、思い出しても  
なんと醜いものだろうと思う



スバルくんが練兵場で大怪我を負い  
エミリア様と仲違いされたと聞いた



どうしてスバルくんが練兵場に  
行ったのかも詳しく理由を  
聞いてはいない



きっと問いかければ  
現在、住まいを借して頂いている  
クルシユ様ならば教えて下さるだろう

誠実を体現した様な方だから…

しかし私は答えを望まなかった

もちろんスバルくんが大怪我を  
した事に動揺しなかつたわけではない

スバル

心配したに決まっている

ただ。その後の事は……

レムにとって笑みを  
浮かべてしまう事  
だったから…

スバルくん  
まだ起きていますか？

んゝ起きてるよ

ガチャ

キイ...

スバルくんはいつもの様に  
笑顔でレムを迎え入れてくれた

現在、時刻は22時を過ぎている

どうした?  
こんな時間に

普段であればもう  
就寝しているところだが  
今日はまだ寝ようとは思えなかった

いえ、何だか寝付けなくて……

なのでスバルくんとお話したいと思ったんですが  
駄目……ですか?



心を傷付けられて  
心を壊して

見ているのが辛くなる程  
スバルくんは憔悴しきっていった



ういよ

あの日から  
スバルくんは変わった



ただ心の傷を付けた人に  
レムは心の底から  
感謝を述べたかった



原因は身体の傷と心の傷

どちらもレムは  
詳しくは知らない

—2日前—

レム……スバルの事  
よろしくね

畏まりました  
エミリア様


ガ  
ガ  
ガ

ただ

今レムが抱いている感情を  
悟られまいと、頭を下げて  
エミリア様を見送る


どこか浮かぬ表情を  
浮かべていたエミリア様だったが  
その原因を作った事に後悔しているのか  
心配しているのかは分からない





見送った後に  
その部屋を訪ねると


部屋の中で  
スバルくんは呆然と  
していた



聞いていた通りだ


レムが入ってきた事にも  
気付かずに

虚ろな瞳で手に掴んだ  
物を見つめている




エミリア様の外套だ

その光景に胸が痛くなるが  
同時に嬉しいという  
感情もあった



……いや、胸が痛くなったのは  
ほんの一瞬だけ

大多数は喜んでしまったのだ



スバルくん  
お怪我の具合は  
いかがですか？

……レムか  
特に何も……

問いかけに一瞬  
反応はするが、  
会話を続けたくない  
ように思えた

仮に反対の立場なら  
レムだってそうする

ただ、ここで退いて  
しまつては意味がない

レムはずっと  
お側にいます

そつと手を  
重ねてささやく

離れるわけがない  
離れられるわけがない

レムにとって  
スバルくんは英雄なのだ

凍っていた時間を溶かしてくれた  
唯一の人なのだから

スバルくんがレムの事を見放しても  
逆は絶対にあり得ない

それ程までにスバルくんが  
心の中を埋め尽くしているのだ

そして囁いた言葉が正解だと  
レムは確信する



レムはそれをただ静かに  
相槌を入れて聞くだけ

それだけでいいのだ  
それだけでスバルくんは  
心を開いてくれる



おれ……おれ……

はい

瞳に涙をいっばいに浮かべて  
スバルくんは嗚咽を漏らす



人は憔悴し、拠り所を探している時に  
優しい言葉を掛ければ  
その人を必要としはじめる

だからレムはスバルくんを  
心配するフリをして話を聞けばいい

何とも醜悪な事だろう



けれど

これを悪びれるつもりは  
毛頭ない

だってそうでしょう？  
心配しているのは事実なのだから  
ただその向いている方向が違うだけ

どうしたら  
良かったのかな……

おれ……  
本当にエミリアの為を思って……

言葉を話すスバルくんの  
姿は弱々しく顔を俯かせて  
涙を溢している

ギューッ……

重ねていた手は  
離れないように強く  
握り締められていた

後もう少しだ

スバルくんは  
頑張りました

けど……

もう休んでも  
良いんじゃないですか？

これでスバルくんは墮ちる

……レム？

……もう……

頑張らなくて良いんです

この日から、スバルくんが  
レムに接する時の態度が  
大きく変わった

レムー  
散歩いかなーか？

レム  
こわおしいな

レムー

具体的に言えば  
スバルくんの抛り所  
なれたのだと思う

何処に行くにも必ず一緒に行くし  
話しているスバルくんの  
表情がレムの求めていた物に  
なっていた

以前はエミリア様だけに  
見せていた特別な笑顔……

それがレムに向けられている  
と気付いた時、どれほど  
嬉しかっただろうか

やっとスバルくんを  
独り占め出来たのだ

ロズワール様の邸にいた時は  
本当に辛かった

姉様に。

ベアトリス様に。

エミリア様に。

レムは嫉妬していた

あの朝、微笑みながら未来を語りた  
言ってくれたのに、スバルくんはレムよりも  
エミリア様と接する事が多かった

ベアトリス様とも  
遊んでいる時間が増えて

姉様とも話す機会が増えて

それは本来喜ばしい事

なのに素直にそれを  
喜ぶことが出来なかった

本当に嫌な性格をしていると思う  
けれど、もうそんな自己嫌悪に陥る  
必要はどこにも無くなった

スバルくんはレムに墮ち  
レムとスバルくんは決して  
離れる事のない契りを結ぶのだ

だから過程に苛まれるよりも  
笑顔で応えよう――

そして：  
いつものように雑談をしていると  
スバルくんは空気を  
感じ取ってくれているのか

表情に柔らかさが  
増している気がした

これからレムが言うであろう事を  
分かっているのかもしれない

そう考えると  
とても恥ずかしい…

それで、ですねスバルくん  
その……あの……

ドキ  
うん  
ドキ

レムを……

ドキ  
ドキ  
ドキ

レムを愛して  
くださいますか？



レム...

ありがとな...  
俺も...レムが好きだ

スバルくん...!



あの、そのまだスバルくんがレムの事を好きじゃなくてもいいんです。エミリア様の事がまだ忘れられないっていうのも分かりますし、今すぐ忘れるのは無理かもですけど、でもでもレムはスバルくんが大好きですし出来たらレムの事もエミリア様の半分...いえ10分の1でもレムを好きな気持ちがあるのでしたら...どうか...お願い



もう、スバルくん？ 女の子にやり方聞いちゃダメなんですよ？

えっとさ、まずはどうしたらいいんだ？



ドキドキ



スバルくんの少し困った顔を見るのも嫌いじゃないけど仕方ない



ううん

あー



あー...さ



ピン



パッ





ぎゅ

目を閉じて全身の神経を唇に集めてゆっくりと動かす

ぎゅ



スバルくん

ん……



ふはあ

舌を絡めて唾液を交わし飽きる程に唇を重ねた



しゅ

しゅ



キスでふやけた唇をもう一度スバルくんと重ねると慣れたのか、今度はスバルくんの方から舌を絡めに来た

レム……

スバルくん……

ざらついた感覚がレムの舌を弄り吸っては舐めて心地いい感触を与えてくれる

えっと、この次って……

まずは服の上から  
触ってください

初めは優しく触ってくださいね

少しずつ強くしてもらえれば

不安そうな表情を浮かべているから  
和らぐように微笑んで見せる

スバルくんは恐る恐る  
レムの胸に手を伸ばす

おお……

もみもみ

ふっ

もみもみ

ふっ

もみもみ

あ、っ









レム  
気持ちいいか？

はな  
はな

あつそこはダメっ  
んんんんん♡

スバルくん……んん

あつ……んう……



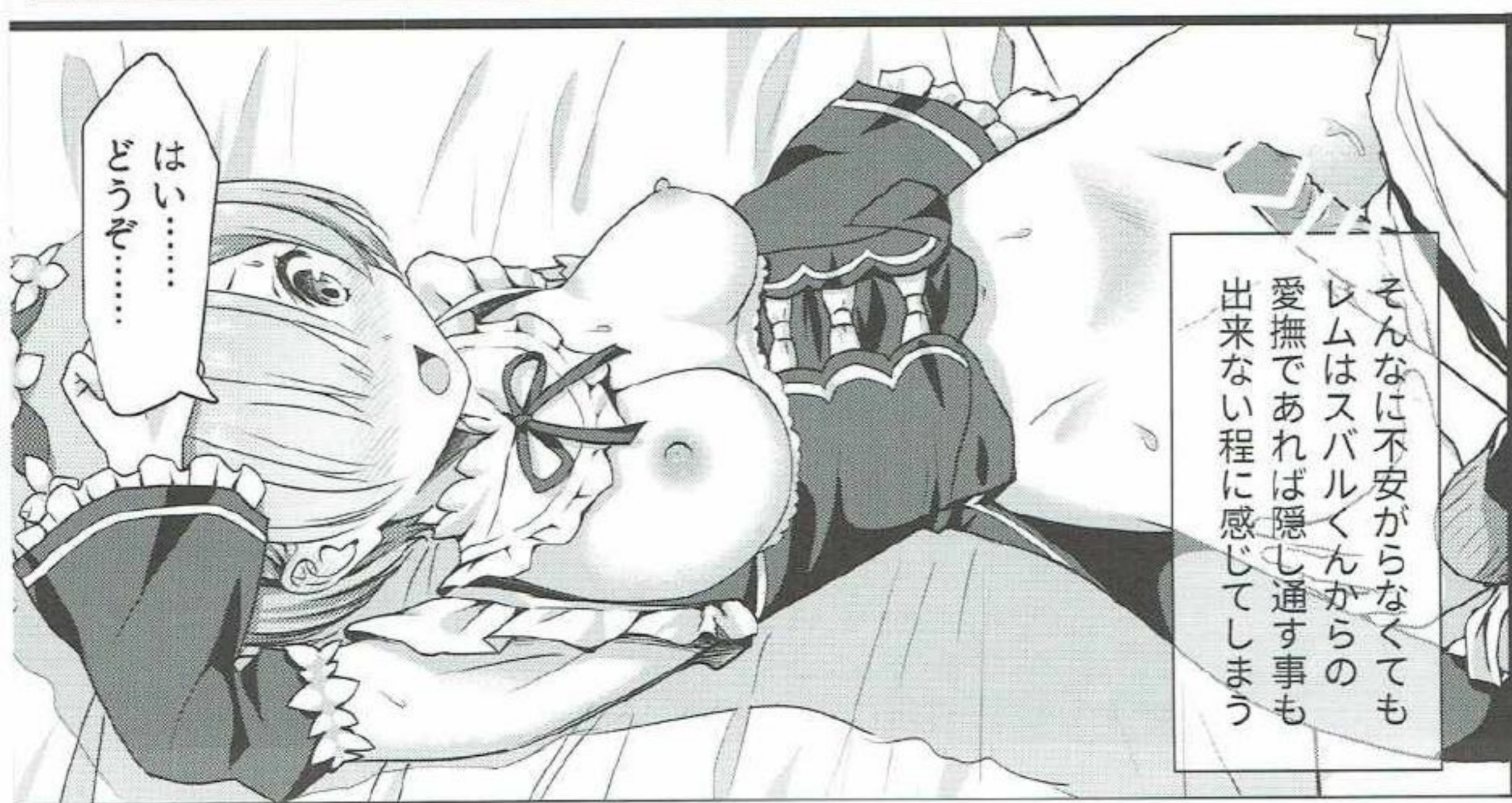
レムをきちんと気持ち良く  
させられてるのかと  
不安だったのだろう

そ、そしたら  
そろそろ平気か？



薄紅色に染まっている頬を見て  
スバルくんは安心した様に  
胸を撫で下ろした

はな  
はな



はい……  
どうぞ……

そんなには不安がらなくても  
レムはスバルくんからの  
愛撫であれば隠し通す事も  
出来ない程に感じてしまう



!!

...んぐっ!

ずぶぶぶ

大丈夫かレム!?  
痛いなら抜きー

平気です……!

は、

平気ですからこのまま…  
このままで…





んっ……

ちゆる……  
んん……ちゆう



本当に大丈夫……

フッ



もう動いても  
平気です……

ギチッ

ギチッ



レムはスバルくんの全てを  
受け入れる様にキスををする



行き交う唾液と、唇の粘膜が混ざり  
身体に走った痛みを忘れさせてくれる



ちゅらららら





レムの中にスバルくんの  
全てを注ぎ込んで欲しい

もっと、もっとスバルくんには  
レムを愛して欲しい



あん！スバルくん！

んぐう！んん！



もし気づかれたら  
スバルくん迷惑が…

こ、声  
我慢しなきゃ…



はしたなく喘ぎ、  
快楽に身を任せていると  
一瞬だけ我に返って思い出す

そう言えばここは  
クルシユ様の邸だ



スバルくんからの急激な攻めに  
興奮状態の身体は震える

ほら、気持ちいいか？



……何と醜いのだろうか  
自分で自分の考えに  
背筋が凍る思いがした



スバルくんは決して  
そんな後ろめたい気持ちで  
してくれただ訳ではないのに……

おれ

レムはスバルくんの  
何を見ていたのだろう  
本当に……私は『鬼』なんだ

ふふっ。スバルくん？  
レムはまだ満足してませんよ？

レム……

まずはおちんちんを  
キレイにしますね

ジツとしててくださいいね  
……よろ……ちやん

ううっ！

鬼ならば鬼らしく振舞って  
みせよう  
スバルくんの全てはレムに  
レムの全てはスバルくんに



おれは

うう……！

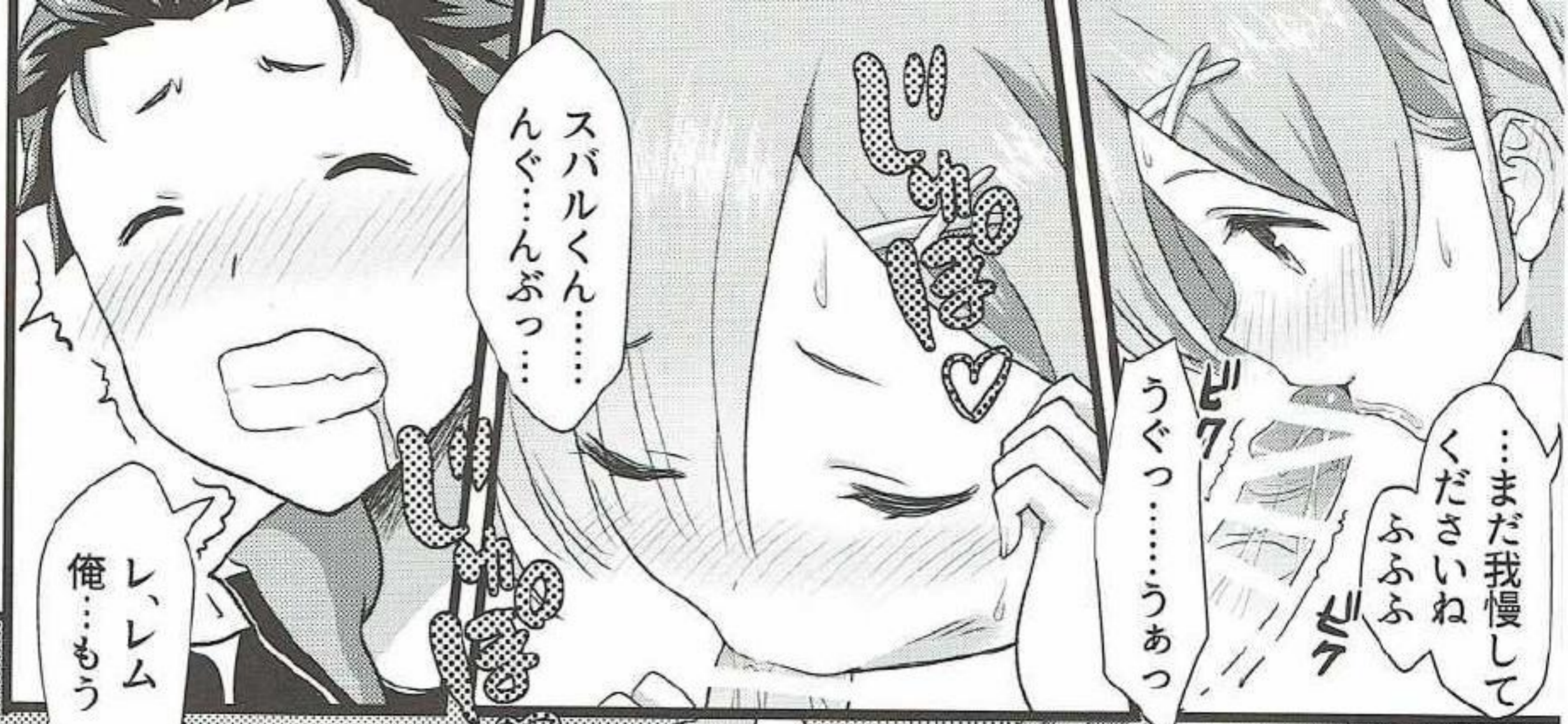


おれは

ぐぐぐ……！



おれは



…まだ我慢して  
くださいね  
ふふふ

うぐっ……うぐっ

スバルくん……  
んぐ……んぶっ……

レム  
俺……もう



仕方ないですね  
……ん……



ふふ……スバルくん？  
レムはまだ満足してないって  
言いましたよ？

ちゃんとレムも気持ちよく  
してくださいね？



ううあああ……

びく  
うぐっ



スバルくん…  
お口を開けてください



スバルくん……んんっ……  
レムが……動きますから

奥まで入りましたね…

んあっ♡



ほら、ほら  
スバルくん！  
スバルくん！

声を出しても良いんですよ…

あがつ！ぐう！……っあ！



ぐっ…うぐっ…  
れ、レム！

はい…！  
スバルくんの  
レムです！

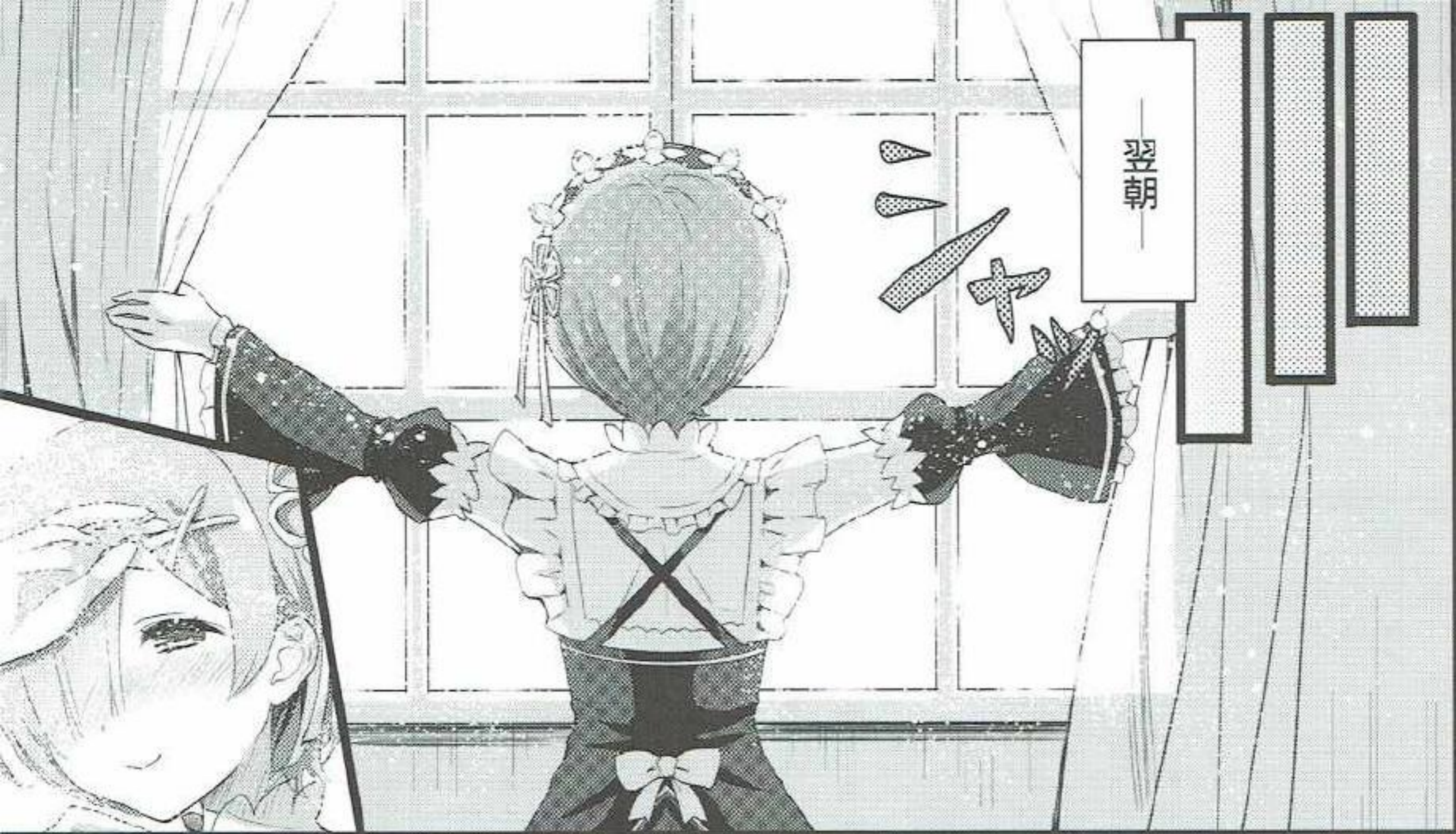
んっ…あっ…！  
スバルくん！  
スバルくん！

んっ…んん…  
…んんっ！









翌朝





んっ……



ごめんなさい  
起こしてしまいましたか？



ううん。大丈夫だ



夢を……  
…見ていたんだ

このままを

レムの中にその…  
俺との子供が出来て、

王戦とかそうゆう事と  
一切関係無い場所で、  
家族仲良く平和に暮らしていく

そんな夢だ



素敵な夢ですね

ポロ



ポロ



スバルくんに聞いて  
欲しい事あるんです

は  
す

ねえ、スバルくん？



レムと逃げましょう  
どこまでも

ギ  
ム



レムがずっと…  
ずっとスバルくんのお側に  
いますから

大丈夫です

そうすればスバルくんの  
夢は叶います





まあ冷えないように  
くっつけば平気だな



スバルくん  
準備は平気ですか？

おう。大丈夫  
っても意外と  
冷え込むのね



夜も明けきららない時間に  
買ってきた竜車に乗り込み手綱を握る

もうスバルくんは

しっかり抱き締めてくれてないと  
大変ですからね？

まかせとけて

さあ、行きましょう  
どこまでもずっと一緒です

レムに後悔は微塵もなく  
あるのは未来に向かって伸びている希望だけ

私は鬼だ。  
種族の鬼とは全く別の意味で  
私は私自身をそう呼称する

全てを捨ててでも選んだ  
この未来をくれた  
あの人には感謝しかない

スバルくんをレムに任せてくれて、  
スバルくんの抛り所になれた事を  
今なら大手を振ってこう言えるだろう

『エミリア様……  
ありがとうございます』  
と

0191.9Re:zero

Re:zero

Re:zero

こんにちは。やすゆきです。

お手にとって頂き誠にありがとうございます。

今回の話はエミリアと仲違いした直後のお話でして、

エミリア好きにはちょっと厳しい内容です。

レムの違う形のハッピーエンドになってたらいいな~と思います

よういよレムりんを育てる話も描きたいなーと思いつつ、未定です！

次回は多分5月のコミ1、コミティアあたりだと思います


それではまた次回お会いできれば幸いです！

0191.9Re:zero

Re:zero

Re:zero





■発行■

紙切ればさみ

■執筆者■

やすゆき

博士

■発効日■

2016/12/31

■印刷■

コーシン出版

■WEbサイト■

<http://kamikire.jp/>

■ツイッター■

@yasu00kamiki

■無断転載・配布を禁じます■

もしアップロードされているのを発見されましたら

下記アドレスまで該当URLを添えてご一報頂けると幸いです。

■こちらの本に関する連絡先■

[yasuyuki@kamikire.jp](mailto:yasuyuki@kamikire.jp)



「もつと、もつとスバルくんにはレムを愛して欲しい」

レムを愛して  
くださいませんか

スバルくん……  
はやくう……

自分で恥部を  
官能的行動に

はい、よく頑張りました  
レムも……ですから2  
一緒に……んっ、んっ